

会 議 録		令和 7 年 9 月 25 日 作成	令和 11 年 3 月 末 日 廃 棄
会議名	京都府福知山警察署協議会（令和 7 年度第 2 回）		
開催日	令和 7 年 9 月 19 日（金曜日）		
時 間	午後 3 時から午後 5 時 30 分までの間（ 150 分）		
場 所	京都府福知山警察署 講堂		
出席者	北村会長、中司副会長、佐竹副会長、片山委員、佐々木委員、大槻委員、 間木委員、松田委員、白波瀬委員、十倉委員 （欠席 澤井委員） 計 10 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、 交通課長、警備課長、広聴相談係長 計 10 人		
諮 問 事 項	1 福知山警察署の自然災害への諸対策について 2 花火大会雑踏警備を終えて、駐在所活動について		
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 副署長 2 署長挨拶 3 協議 司会 会長 (1) 諮問事項説明 福知山警察署の自然災害への諸対策について～警備課長 【委員】 京都府警察には特別救助班員の人数が 11 名いるという説明を受けたが、どのような方が特別救助班員の指定を受けるのか。 【警察】 京都府警察の機動隊にはレスキューに対して訓練に励んでいる者は多数いるが、その中でも特別な資格を有する者、多数の災害現場を経験している者等から、知識、救助技術が特に優れている者が特別救助班員の指定を受けて活動している。 【委員】 特別救助班員の年齢層はどれくらいなのか。 【警察】 現在、京都府警察で特別救助班員の指定を受けている者は 11 名と説明したが、比較的若い班員が多く、班長が一番年上で 30 歳代半ばで、一番若い班員が 20 歳代前半の者がいる。年齢だけに縛られるわけではなく、能力重視で現場で活躍できる者を中心に指定している。 【委員】 説明の中で現場において捜索を諦めて次の現場に向かうとあり、その判断は難しいと感じたが、この判断は班長が決定をするのか。 【警察】 指揮官と呼ばれる幹部が外で安全管理と活動調整を行っており、指揮官は		

搜索現場の中で活動を行っている班員から現状の報告を受けて、現場の状況や他の要救助者の有無等を総合的に判断して、最終的に指揮官が決断することになる。

【委員】京都府警察の特別救助班員に任期はあるのか。

【警察】特別救助班員に指定されている者は機動隊に所属しており、警察署と同じように異動があるため、通常の異動周期は他の警察官と同様である。

【委員】災害現場において諦めなければいけない現場や辛い現場もあると思うが、それでもなお活動を続けられている活力はどこから生まれてくるのか。

【警察】家族の存在が大きく、もし自分の家族が被災した時の状況を考えると、日々の訓練で力を抜くところはなく、家族や身内がこのような状況に陥った場合にどうしてもらえると家族が救われるのかと考えて訓練している。実際の現場では生存して家族の元へ返してあげることが一番ではあるが、どこまで親族の心に寄り添って心情を救ってあげられる救助ができるのかということを意識しながらモチベーションにしている。

【委員】災害現場で活動している中でメンタル面をどのように保っているのか、また、メンタル面を長期保持するためのケアはどのようにしているのか。

【警察】災害現場では、要救助者を救助するという点に重点を置いて活動しているが、悲惨な状況を目の当たりにすることもあり、現場で活動した班員が何もできなかったという惨事ストレスに悩まされることもある。しかしながら、京都府警察には心理面をサポートしてくれる部署もあり、その部署と連携しながら、心情や心理的なストレスがどれくらい蓄積されているのか確認してケアしている。

【委員】以前に大震災の映像を見た時に、消防隊員の方に向かって罵声を浴びせている被災者の映像を見たことがあるが、災害現場でそのような経験はあるか。

【警察】救助できずに現場を離れたという説明をしたが、その現場では家族の方が警察の活動を見ていて、指揮官が家族に対して現場離脱の説明をすると、罵声はないものの、やはり涙を流しながら頷いて感謝の言葉を掛けられる場面はあった。

【委員】災害現場では生存して救助することが大切であるが、亡くなられた方に対する対応も大事な活動であり、どの立場でも親族の方に寄り添うということが非常に大切なことだと改めて感じた。

【委員】私の職業は新築の住宅の設計や施工であり、新居等を引き渡す際には火災保険に入っていてから引き渡している。しかし、地震保険はどこか遠くの話という感じで、お客様にどのように伝えたらよいか考えさせられた。特に山間部では地滑りも多く、今日の報告を聞いて本来お客様に提供する時にプロとして何をアドバイスしていく必要があるのか非常に考えさせられた。

(2) 諮問事項説明

花火大会雑踏警備を終えて、駐在所活動について～地域課長

【委員】花火大会の雑踏警備は本当に大変であったと感じた。実行委員会と連携し

会 議 内 容	て安全性の高いものに仕上げていくのが警察の仕事だと思うし、反省点の振り返りをしっかりと、以前の失敗を繰り返さないことが大事である。回を重ねるごとに規模も拡大していくというような話も聞いているが、警察がしっかりコントロールすれば二度と失敗は起こらないと思うので、大変ではあるが来年に向けて反省、検討をお願いする。 【委員】私は花火大会を観覧し、降雨の中で心配していたが実行委員会が携帯ライトで歩行者を照らすなどして何も問題はなかったと思った。今年の花火大会が成功したがゆえに来年がもっと普通に簡単にできるのではないかと思われるのが一番懸念事項となっているので、今一度、準備等が大変だとは思いますがお願いしたい。 【委員】私の居住地区を担当している駐在所員はよくパトカーでパトロールをしていただいております、私が青色防犯パトロールの活動を行っている、必ずすれ違い時には会釈してくれる。本当によくパトロールをしてくれているなと感心している。今後も大変なことは多々あると思うが、府民のための活動をお願いする。 4 事務連絡 令和7年度第3回京都府福知山警察署協議会は、令和7年12月上旬に開催予定である。 以 上
--------------------	---

第2回京都府福知山警察署協議会の開催状況

